

## 4) 藻場調査

## (1) 志津川サイト

毎年調査結果票 2010（平成 22）年度


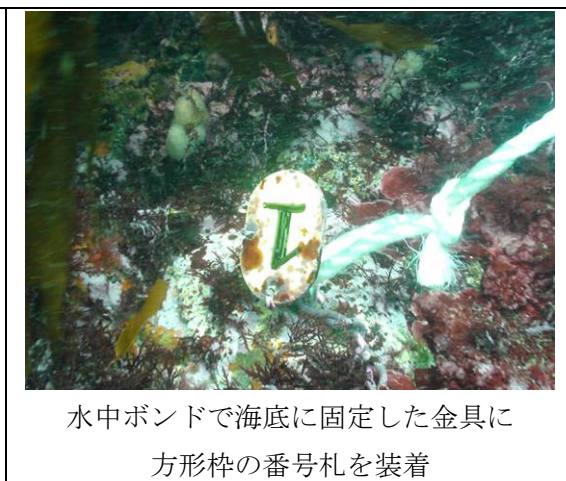
(1) サイト名	志津川（宮城県本吉郡南三陸町）	略号	ABSDG
(2) 海域区分	①北部太平洋沿岸		
(3) 緯度・経度 (WGS84)	38.6511 N, 141.4917 E（起点）		
(4) 調査年月日	2010年6月14～16日		
(5) 調査者氏名	サイト代表者：太齋彰浩（南三陸町自然環境活用センター） 調査者：太齋彰浩（南三陸町自然環境活用センター）、田中次郎（東京海洋大）、坂西芳彦（（独）水研セ*・日本海区）、倉島 彰（三重大） 調査協力者：－		
(6) 環境の概要	離岸距離と水深で底質が異なる。岸寄りには岩盤だが、離岸距離 50 m から 80 m にかけては小転石、転石が混じる他、転石のみとなる部分もある。離岸距離 90 m 以遠は巨礫または巨礫と岩盤となる。三陸の典型的なリアス式海岸の中にあり、志津川湾内に浮かぶ島（椿島）の外洋に面した岩礁海岸である。調査対象群落は湾内に位置するが、沖側の湾口部に面していることから海水の流動が活発で、透明度は高い。		
(7) 植生（藻場） の概要・特徴	主要な植物として、アラメ、エゾノネジモク、アサミドリシオグサ、アミジグサ、マクサ、ユカリ、タンバノリ、ヌメハノリ、ハリガネ、マルバツノマタ、ミツデソゾ、ハイウスバノリが生育する。また、底生動物として、キタムラサキウニが確認された。調査海域には岸寄りではエゾノネジモク、フシスジモクが混生するが、基本的にアラメが主体となる群落である。下草としてはアサミドリシオグサ、フクロノリ、アミジグサ、マクサ、ユカリ等が見られる。調査海域周辺ではマコンブ群落が見られる場所もあり、寒海性コンブ目と暖海性コンブ目が共存する海域の代表的な藻場の一つと言える。		
(8) 植生（藻場） の変化	2008 年度、2009 年度の調査結果と比べても、明らかな植生の変化は認められなかった。		
(9) その他特記 事項	調査海域は岸寄りではエゾノネジモク、フシスジモクが混生するが、基本的にアラメが主体となる群落である。		

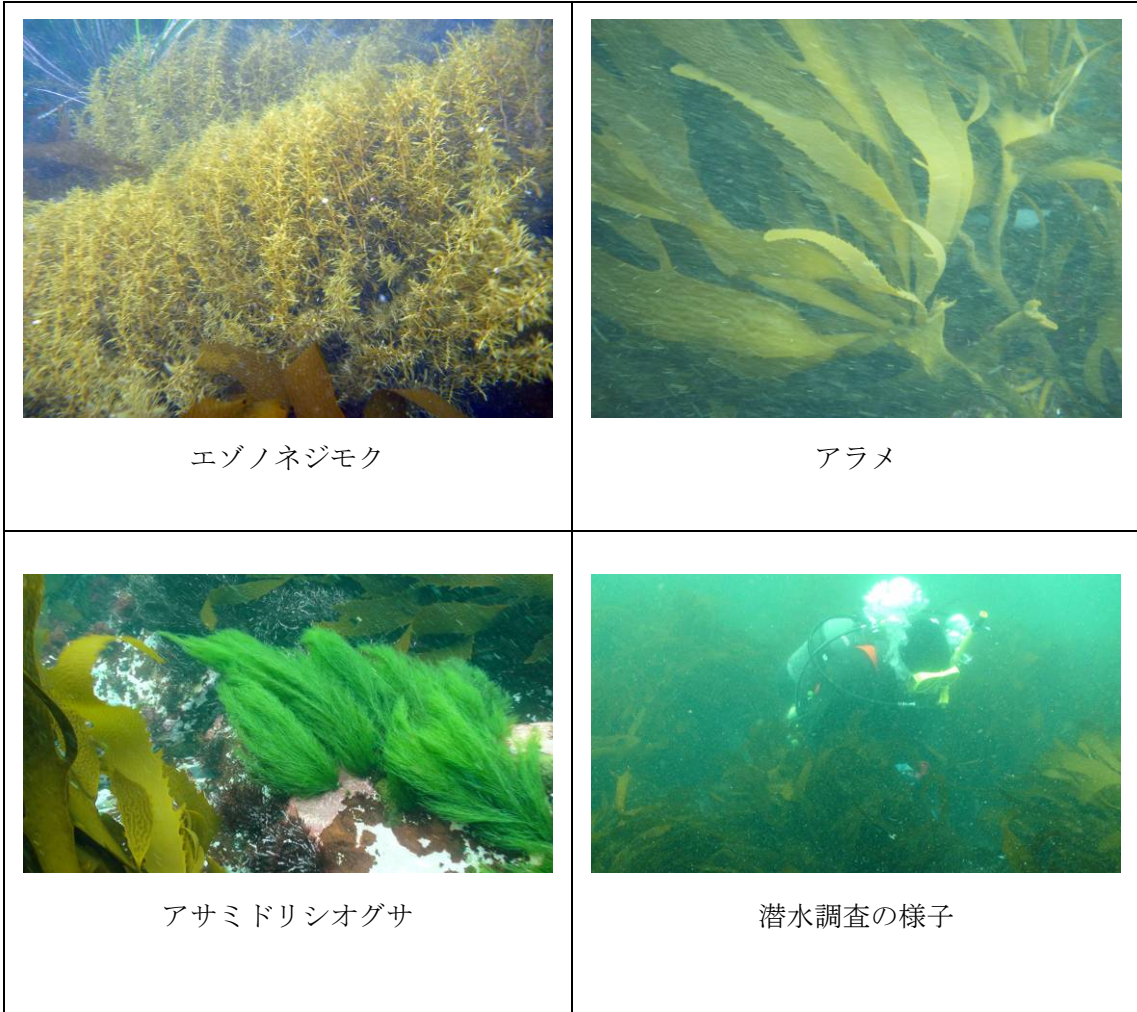
\*（独）水研セ＝独立行政法人水産総合研究センターの略

調査地の地図

	<p>位置図（広域地図）</p> <p>円内に調査地がある。 スケールは7 km を示す。</p>
	<p>位置図（詳細地図）</p> <p>実線は調査ラインを示す。 スケールは1 km を示す。</p>

調査地の景観、生物写真等

 <p>調査地周辺風景 陸側をのぞむ</p>	 <p>水中ボンドで海底に固定した金具に 方形枠の番号札を装着</p>
---	---



(写真撮影：坂西芳彦、太齋彰浩、田中次郎)

志津川サイトの永久方形枠における海藻被度の経年変化

方形枠	赤(R)		白(W)		黄(Y)		
	林冠	下草	林冠	下草	林冠	下草	
DL水深 (m)	-5.2※		-4.7※		-5.1※		81-100%
底質	転石 岩盤		岩盤		岩盤		61-80%
2008年度	65	43	100	53	95	56	41-60%
2009年度	73	103	90	93	95	85	21-40%
2010年度	68	80	100	83	90	93	1-20%
							0%

※実測値